

## 1 目的

- 各地域が抱える課題を解決するため、地域公共交通に関するデータの可視化を進めるなど、データ等を活用して「交通空白」の解消に向けた取組を推進する。
- 各地域のベストプラクティスを共有し、多くの知恵と力を結集しながら、地域住民の持続可能な「移動の確保」を目指す。

## 2 研究テーマ（例）

- データを活用した交通政策の実践（地域交通計画及びアクションプランの策定）
- 国が推進するデータ標準化並びに収集及び活用ルールの実践
- KGI/KPIの設定、クロスセクター効果の測定方法
- 国内外の先進事例、AIの活用、自動運転技術の導入 等

## 3 具体的な取組内容（例）

- 国のデータ標準化、収集・活用ルール等を参考に、関係機関等から人口情報・地域特性情報・交通ネットワーク情報・交通サービス利用情報を集める。
- 潜在需要情報（特に、自家用車を活用している人の移動データ、国内外観光客の移動予測等）の取得方法を検討し、入手するためのスキームを検討する。
- 上記データを活用した現状診断（現状把握+課題の洗い出し）を行う。あるいは、不足するデータや取得できない条件を整理する。
- 国内外の事例を仮説として整理し、医療・教育・仕事・暮らしなど各分野におけるクロスセクター効果を上げるための手法・測定方法の分析を行う。
- 上記各プロセスを通じて、自治体と国それぞれの役割が明確化され、その成果を踏まえ、必要に応じて国への提案・要望等に発展させることも想定される。 等

### 3 構成員等

- (共同発起人) 静岡県知事 鈴木 康友、三重県知事 一見 勝之  
(賛同県知事) 富山県知事 新田 八朗、石川県知事 馳 浩、山梨県知事 長崎 幸太郎、  
長野県知事 阿部 守一、岐阜県知事 江崎 禎英、愛知県知事 大村 秀章、  
滋賀県知事 三日月 大造、岡山県知事 伊原木 隆太  
(シンクタンク) (一社) 全国自治体ライドシェア連絡協議会共同代表 浅見 泰司  
顧問 藤井 直樹  
(オブザーバー) 国土交通省・地方運輸局等

### 4 事務局 静岡県

### 5 スケジュール (案) (研究会：年1回、幹事会 (担当課長)：年2回程度)

- ①令和8年1月28日 (水) 第1回研究会：設立会合・方向性確認
- ②令和8年 2月 第1回幹事会：各県においてテーマ選考
- ③令和8年10月 第2回幹事会：取組状況の共有
- ④令和8年11～12月 第2回研究会：途中成果発表・次年度方針
- ⑤令和9年 1月 第3回幹事会：データ活用の深化
- ⑥令和9年10月 第4回幹事会：研究成果報告、政策提言案作成、国への要望書作成
- ⑦令和9年11～12月 第3回研究会：総括・次段階構想

※必要に応じて、国内外視察の企画も検討